川内村住民の避難生活・帰還支援における
生活コミュニティーサポート事業

# 事業報告書

（東日本大震災復興支援）

Fukushima-ken Kawauchi-Village

# 川内村

## 川内村とは？

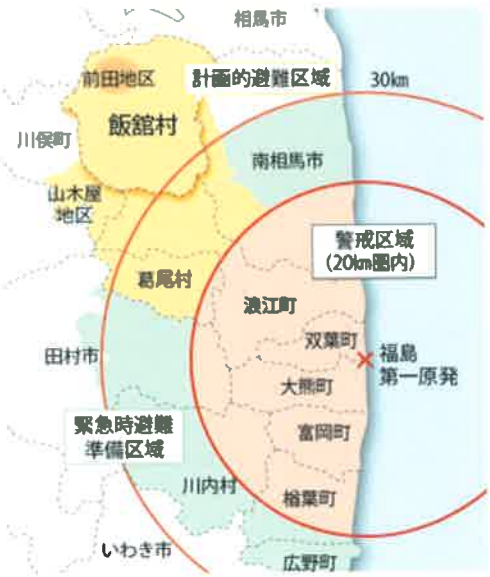
福島県双葉郡川内村は、阿武隈高地の中心部に位置して、標高 500 ～ 600 メートルの所にあり、東日本大震災前は 3000 名の方が生活をされていました。縄文土器が発掘されたり、坂上田村麻呂が献植した神木が現在も残っていたりするなど、古くから存在している場所です。面積の 90%以上が山林か原野で、村全体が豊かな自然にあふれています。特に平伏沼は、モリアオガエルの繁殖地として国から天然記念物に指定されました。また、カエルの詩人と呼ばれ文化勲章を受章した有名な詩人故草野心平氏に愛された土地です。環境も素晴らしく、温和な場所でしたが、2011 年の福島第一原発の事故で、全村民が避難を余儀なくされました。

| 年齢 | 人口 | 割合 |
|---|---|---|
| 0 ～ 14 歳 | 260 | 9.2% |
| 15 ～ 64 歳 | 1567 | 55.6% |
| 65 歳以上～ | 993 | 35.2% |
| 計 | 2820 | |

■ 男性 1414 名　■ 女性 1406 名

（平成 22 年国勢調査より）

## 東日本大震災発生




2011 年

- 3 月 11 日　東日本大震災　発生
- 3 月 12 日　富岡町町民の避難受入
- 3 月 14 日　村全域が屋内退避区域に設定
- 3 月 15 日　村が住民に自主避難指示
- 3 月 16 日　郡山市ビッグパレットふくしまへの避難開始
- 4 月　1 日　二次避難開始。ビッグパレットふくしまから旅館・ホテル等に避難
- 6 月 10 日　郡山市南一丁目、稲川原、若宮前応急仮設住宅入居開始
- 7 月　9 日　上記 3 仮設で自治会発足

2012 年

- 1 月 31 日　帰村宣言
- 3 月 26 日　川内村での役場機能再開
- 3 月 28 日　いわき市小名浜大原応急仮設住宅入居開始
- 4 月　1 日　川内村でかわうち保育園、小学校、中学校の再開
- 6 月 11 日　川内村下川内応急仮設住宅入居開始

2014 年

- 10 月 1 日　村の一部の避難指示解除準備区域の避難指示が解除

2016 年

- 6 月 14 日　村の残りの避難指示解除準備区域の避難指示が解除

2017 年

- 3 月 31 日　川内村住民への仮設住宅提供終了

# 川内村とコースターの出会い

2013年12月23日にビッグパレットふくしまで開催された東日本大震災支援全国ネットワークが主催する「第8回現地会議in福島（伝える・つなげる 福島の復興 ～会津・中通り・浜通りから～）」のパネルディスカッションで当団体の代表である岩崎とNPO法人昭和横丁の志田篤氏がパネラーとしてご一緒したことが最初の出会いでした。このイベントでは、東日本大震災の復旧・復興支援に取り組む団体が加盟して定期的に意見交換をする場だったのですが、当時震災から3年が経ち、それぞれの団体の現状や課題の共有がなされていました。NPO法人昭和横丁は、郡山市でも大規模な仮設住宅である南一丁目応急仮設住宅の自治会長である志田代表を中心に、避難している住民で組織され、生活支援やコミュニティ支援を行われていました。その中で、川内村は既に帰村宣言がなされていましたが、仮設住宅で生活を余儀なくされている方々への支援の手が少なく、生活再建が困難な状況下にあり、様々な団体からのサポートを求められておりました。そこで、郡山市で活動している当法人がNPO法人昭和横丁と連携して、仮設住宅の住民のサポートをするプロジェクトを実施することになったのです。

## 仮設住宅の住民による住民のための
# 八百屋・魚屋「横丁市場プロジェクト」

1. 買い物するのも一苦労でしたが、今は笑顔であふれています　2. キッチンカー提供の支援を受け、野菜・海産物の他にもお惣菜を販売しています　3. お目当てのものを探すお客さんたち　4. 横丁市場の販売風景。ただ買い物するだけでなく住民同士の古流の場にもなっています

当初は生活困窮者向けに全国各地から支援物資を募り、まずは明日生きるための食材を支給しました。最低限の命をつなぐ支援を実施しましたが、健康促進や生きがいづくりという点で新たな課題が発生しました。仮設住宅の暮らす人々の交通手段がないことから、買い物難民となり、栄養バランスが取れない状況にあったのです。また元気な住民の方々が活動できる場もなく、気力を喪失するまま日常を過ごしている姿も見受けられました。そこで、仮設住宅の中で、元気なお母さんたちを店員に、地場の野菜や東日本大震災で同じように被災した南三陸産の海産物を週2回の頻度で販売する「横丁市場」を始動させることにしました。当初は販売のオペレーションや仕入れ先の開拓などのサポートを行いましたが、今では当団体の支援がなくても、仮設住宅のお母さんたちで運営できるまでになりました。野菜や海産物の販売の他、お惣菜をつくって販売もしています。

## 昭和横町の紹介

NPO法人昭和横丁
〒979-1202 福島県双葉郡川内村大字下川内字平沢62番地の3
TEL 080－1387－2302

放射能汚染によって過疎、高齢化が急速に進んだ川内村に生活を有するあらゆる住民に対して、環境保全事業、生活支援事業、住民広域間交流事業を行う事によって、この地域の不便性を補い、この地域の住民による助け合うコミュニティの構築を目指して活動している。

Volunteer

# 清掃ボランティア活動

## 片付けボランティアの開催の経緯

横丁市場が始まり、仮設住宅の中での活気がより一層出るようになりました。多くの人々の笑顔が生まれましたが、横丁市場や集会所によく来る住民に限られ、そうした場にあまり参加できていない人の声が聞こえづらい状況でした。「家の中でせめて本音が聞ければ…」という想いはありましたが、御宅に入るのは非常にハードルが高いものでした。そこで、仮設住宅での支援を石巻市で行う特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワークが行っている仮設住宅の清掃ボランティアのことを知り、ノウハウ移転を受け、ボランティアを募り、南一丁目応急仮設住宅でも清掃ボランティアを始めました。今も継続して実施しています。

## 清掃ボランティアとは？

仮設住宅に暮らす人々の多くが高齢者の方です。多くの方が身の回りのことを自分自身でされていますが、どうしても高いところ清掃ができていない状況にありました。そこで、エアコンや換気扇、網戸といった高所を中心として、普段手が届かない場所の清掃をボランティアが行いながら、お困りごとを聞く活動をしました。2016年からは、御宅での清掃活動に加え、2017年3月末で川内村が郡山市における仮設住宅の用地の借上が終了することから、片付け・引っ越しボランティアも始めました。

### 今までの実施日時

**清掃ボランティア**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2014年 | 7月6日 | 2015年 | 2月17日 |
| | 8月18日 | | 3月22日 |
| | 19日 | | 8月20日 |
| | 20日 | | 21日 |
| | 21日 | | 22日 |
| | 12月13日 | | 12月19日 |
| | 14日 | | 20日 |

**清掃・片付けボランティア**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 2016年 | 7月10日 | 2017年 | 3月5日 |
| | 12月11日 | | |

しみついた汚れを高圧洗浄機を使って
ピカピカにしています

## エアコン・換気扇・網戸などの高所の清掃

普段、掃除をしたくてもできなかった高所の清掃を行いました。エアコンはフィルターを外して、カビの原因となるほこりやタバコのヤニを丹念に取り除きます。換気扇はフィンを外し、こびりついた油をスポンジ又はブラシで落とします。網戸はストッパーによって簡単に外せなくっているので、ドライバーでストッパーを外して高圧洗浄機で洗います。

## 御用聞きを兼ねたお茶飲み

清掃中は住民の方にも立ち会っていただき、途中の休憩や清掃が終わったあと、御宅でお茶いただきながら、住民の方のお話を伺っています。震災時の話や昔の川内村のこと、そして、現在抱えている悩みや今後の暮らしなど、様々な話が出てきています。ここで得た情報は仮設住宅の責任者や支援関係者の方にも共有して、当団体だけでは対応できないことについて連携を行っています。

## Before After

避難当初から清掃できないでいた換気扇とエアコンフィルター。たまった汚れを丹念に落としました。

# 仮設お別れ会

**2017年3月18日**

## 郡山市南一丁目仮設住宅交流会

平成 29 年 3 月 18 日（土）に、仮設住宅借上終了に伴い、本格的な帰村に向けて住民と支援団体合わせて 41 名で、仮設住宅でのお別れと今後村の中での交流を続けるためのセレモニーを開催しました。当日は、支援団体 7 団体と住民の関係を今後も続けていくことも兼ねてそれぞれ記念撮影を行いました。また、以前ボランティアで来ていた民謡歌手をお呼びして当時の思い出を浮かべながら、参加者で民謡を歌いながら、交流を行いました。

# 清掃ボランティア参加者データ

2014 年～ 2017 年で多くのボランティアの方に協力いただき、たくさんの御宅の清掃と御用聞きをすることができました。参加した方々と清掃した件数の数は以下の通りです。

## ボランティア参加者数（のべ）

**271人**

うち大学生
177人

2014 年…110 名（うち学生 67 名）
2015 年…72 名（うち学生 37 名）
2016 年…49 名（うち学生 37 名）
2017 年…40 名（うち学生 36 名）

## 清掃および御用聞きをした仮設住宅の御宅数

**213件**

2014 年…91 軒
2015 年…74 軒
2016 年…31 軒
2017 年…17 件

# 参加したボランティアの声

**多くのボランティアの方々に参加いただきましたが、参加いただいたことで感じたことや学びの一例が下記の通りになります。**

初めて自分からボランティアに参加して自分はちゃんと動けるか心配でした。でも、住民の皆さんがやさしく接して下さって楽しく掃除ができました。これを機にこれからもボランティアに参加しようと思いました。（大学生、女性）

人とお話することがあまり得意ではないので、仮設の方と上手く話ができるかとても心配でした。しかし、仮設の方の生の声を聞いていくうちに会話が弾んでいました。とても良い経験でした。（大学生、男性）

いろいろと大変なことが多いと思いますが、できるだけ長くこの清掃ボランティアを続けられるようにしていただければ幸いです。仮設住宅が 2017年3月までと伺っておりますが、今後どのようになっていくのか、私なりに見守って参りたいと考えております。（社会人、男性）

津波被災地にない、様々な課題があると感じました。一方で、皆さんのもてなしには、疲れた心が洗われる思いがしました。今回の活動で、ボランティアに関係なく、また皆さんに会いに行きたいという思いを強く感じています。（大学院生、男性）

初めてお伺いしたにもかかわらず、温かく迎い入れていただき、とても嬉しかったです。昼食のご飯はとても美味しく、一人暮らしをしている私にとって、実家に帰ったような気持ちになりました。すれ違う時は毎回「本当にありがとう。ご苦労様。」と声をかけていただき、とても優しい方々だなと感じました。これからも皆さんで和気あいあいと楽しく過ごしてくださいね。身体には気を付けて、元気に過ごして下さい。また来ますね（大学生、女性）

様々なご家庭の両方の清掃を体験させていただけたので、たった１日のお手伝いでしたが、同じところにいても、家庭によって生活環境が全く異なっていることがわかりました。それだけでなく、普段は気付かない体の不自由なご老人にとって何が困難で必要とされているか分かってよかったです。（大学生、女性）

# 住民の声

## 志田 篤
## 郡山市南一丁目仮設住宅自治会長

避難生活が6年という長期生活の中で、高齢者を中心に体力も気力も日に日に減退していく様子がありました。清掃ボランティアで活動してもらうことは、そうした減退していく状況の中で、かゆいところに手を差し伸べていただいたような気がして、多くの高齢者にとってありがたい場でした。そのことへの感謝の表れとして、ボランティアの方がお腹いっぱいになるくらいの飲み物・食べ物が各家庭で出たと思います。これから村に戻る人、村外で引き続き生活する人など、それぞれ生活再建の方向は違いますが、ご支援いただいたことで残りの余生を前向きに過ごしていけるかと思います。

# 川内村の支援コミュニティを充実するための勉強会を開催

## 福島第一原発視察ツアーおよび視察報告会の開催

避難生活を続ける人もいますが、多くの村民が2017年4月に帰村する流れになります。未だに福島第一原子力発電所の事故が収束していない中で帰村することで、どんな問題があり、これから複雑になっていくであろう課題に対してどう向き合っていくのかについて、支援団体が連携して考え活動していくための勉強会を実施しました。その中の一環として平成29年2月に社会学者開沼博氏のアテンドの元、福島第一原発の現状を視察し、平成29年3月には視察した参加者の視察報告を行い、どんな支援が必要か、交流しながら議論を行いました。

福島第一原発の中央制御室です。震災時はここで被害を拡大しないよう日夜対策が練られていました

東京電力福島復興本社の石崎代表より廃炉の今後についてご講演いただきました

視察して感じたことをお互いに共有し、今後の支援方針について議論しました

## 今後の支援活動について

2017年4月に多くの人々が帰村しますが、当団体ではNPO法人昭和横丁を始めとする川内村の関係組織と連携して、引き続き仮設住宅に残った住民に対する清掃および片付けボランティアを実施していく予定です。
また、帰村した住民への生活再建やコミュニティ支援として、村内でもボランティアを募り、イベントや公共施設の草むしり・掃除などの活動を通して、川内村の人々が生活しやすい環境づくりに寄与できればと考えています。
詳しい活動は当団体のホームページまたはFacebookページで随時発信いたします。

## NPO法人コースターについて

NPO法人 costar コースター

### 団体理念

福島県で、創造的で持続的に自己変革していくことができる地域社会の実現を目指して、社会的課題の解決に取り組む人材の育成及びその促進のための社会的基盤整備を行うことを活動の目的としています。

### 主な事業内容

| | |
|---|---|
| 事業づくり支援<br>復興支援活動 | 若者が地域に入り、住民と一緒に課題解決や地域おこし、復興活動に取り組む活動のコーディネートをしています。その他、NPO法人や地域団体の設立補助や資金調達、事務局整備などの事業を展開しています。 |
| コミュニティスペース<br>「福島コトひらく」の運営 | 築40年以上の倉庫を改修して、交流サロン、コワーキングスペース、貸会議室、貸事務所を兼ねた複合型のコミュニティスペース「福島コトひらく」を運営しており、様々なジャンルの団体の活動拠点やネットワーキングの場所として活動しています。 |
| 各種イベント、研修 | 市民活動に関する勉強会の他、NPO職員向けの人材講座やワークショップを実施しています。 |

〒963−8071　福島県郡山市富久山町久保田字下河原191−1
電話：024−983−1157　FAX：024−983−1158
ウェブサイト　http://costar-npo.org　／　メール　info@costar-npo.org
Facebookページ　https://www.facebook.com/npocostar/

RING!RING! プロジェクト 競輪&オートレースの補助事業

この報告書は公益財団法人JKAのオートレース・競輪による東日本大震災復興支援の補助を受けて作成しています。